（別紙4）　　令和　7　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4392600112		
法人名	社会福祉法人光進会		
事業所名	グループホーム光喜園		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字室1713番地		
自己評価作成日	令和8年1月10日	評価結果市町村受理日	令和8年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和8年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念の「にっこり笑顔で私らしく、ほっこり幸せあなたと共に」を忘れず、施設にかかわるすべての方が笑顔で自分らしく過ごして頂けるよう、最後まで家族のように関わり、決して一人ではないと思って頂ける様に支援しております。常に利用者一人ひとりの気持ちに寄り添いながらケアを行うよう努めています。利用者に今を楽しんで頂くために、様々なイベントを行っています。また、ご家族にも安心して頂ける様に、毎月の状況を写真付きのおたよりで報告しております。入浴は温泉を完備しており、温泉に浸かりながら、のんびりと過ごして頂いています。地域連携に関しては、町主催の研修(虐待防止・権利擁護)に参加したり、近隣の中・高生の職場体験を受け入れ指導を行い、秋にはグループ施設全体でふれあい祭りを開催し、地域の方々との交流も行い大変喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

この一年感染症予防の徹底によりインフルエンザ等の罹患も無く、個々の生活歴や性格や思いを把握し、自分らしい生活を支援するため本人の立場に立って追求している。故郷訪問として実家の仏壇参りや墓参・近所付き合いのある住民との交流や家族と待ち合わせした買い物支援や、新聞を読んだ り、菜園で作る野菜が入居者により料理となる等生き生きとした生活の様子に表れている。入居者が地域の一員として暮らし続ける基盤は確立し、地域住民との交流（法人として開催するふれあい祭り等） やボランティア及び、園児との交流等に表われている。管理者や各ユニットリーダーを中心と した高い専門性と的確な健康管理のもと、入居者同士も仲間として語り合いながら和やかな生活ぶりに、理念の一 つである“にっこり笑顔で…”の実践の成果が表出している。高齢化傾向にある入居者及び家族の希望があれば主治医や家族と連携しながら終末期まで支援する体制が構築しており、福祉が集中する中のグループホームとしてその機能を発揮している。

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：グループホーム光喜園　1丁目

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の思いを形にした理念を作成する。その思いを忘れない様1年に1回の施設勉強会で理念塾を開催し理念についての話を行い、職員の介護に対する方向性を見失わずケアにあたるようにしている。又、理念は朝礼や会議の時に唱和行い、毎日の介護で実践出来るよう努めている。	日々の朝礼及び会議での唱和による意識強化や、理念として掲げる「「にっこり笑顔で私らしく、ほっこり幸せ　あなたと共に」の実践に向け目標の見える化に努め、職員個々の意見や職員のやりたい事・得意分野が発揮できる体制としている。理念塾として年に1回研修を行ない振り返るとともに次年度の目標を立て、目標達成にベクトルを同じくして臨んでいる。更に、地域密着型事業所としての意識を持った事業を展開している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様9月にふれあい祭りを開催し地域の方々と交流をすることが出来た。その他、交流に関しては昨年度同様に運営推進会議を開催して地域の方々との交流を行っている。又、大津町主催の虐待防止（虐待防止・権利擁護）研修参加している。	地域の寄り合いへの参加しながら啓発に努め、法人主催による“ふれあい祭り”による住民との交流、散歩中の園児たちへの声かけやマラソン大会を応援し、中学生の体験学習では一緒にカレーを作ったり、高校生の職場体験時にはハロウィーンの貼り絵に入居者も一緒に取組む等異世代間の交流に努めている。利用者が、地域の中で生きることを家族の協力も得ながら支援するホームである。故郷訪問時の近所付きのあった方々との交流等に表われている。散歩中の住民（有料施設の利用者）との花からスターとした交流が玄関の彩り（絵手紙）として生かされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も運営推進会議を開催し地域の方々と交流を行った。又、地域の中学生・高校生の職場体験希望者を積極的に受け入れ、認知症への理解や支援の方法、地域貢献が出来るよう努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も運営推進会議を開催し、地域の方々と交流を行った。会議内で入居者の状況、事故事例の報告・外出行事の報告等を行い、研修内容では初めて福祉用具の展示会を開催し参加された方々に最新の福祉用具を見て触れて体験してもらった。意見交換や地域との交流を行っている。	法人の地域密着型事業所合同で開催する運営推進会議は、役場をはじめとして地域包括支援センターや病院連携室・近隣のグループホームや支援学校長、薬局等の多業種の参加により各事業所からの行事やヒヤリハット・事故報告書等の他、地域の課題の検討や、福祉用具の展示会など企画を組み入れており、この会議を有効に活用し、展示会での相談にも対応している。開催後はアンケート調査を行なう等創意工夫した会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、施設運営やケアサービスの取り組みについて相談を行ったりと連絡している。メールや電話などでのやり取り、地域での研修会等も積極的に参加している。 運営推進会議にて福祉用具展示会開催の時には大津町DX担当者とも密に連絡を取り、情報の共有に努め、アンケート結果についても報告した。	運営推進会議への参加時ホームの現状等取組みを発信し、町担当者に利用者の車椅子からリクライニングの使用について相談し、県に確認した上で回答をもらう等不明な事は役場に相談している。地域包括支援センターからの問い合わせや町主催の研修会へ参加（虐待防止や権利擁護、認知症の研修会等）、運営推進会議での福祉用具での展示会を見て、役場での展示会の開催に至る等相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、年2回勉強会を行い知識の研鑽に努めている。グループホームとしては、昼夜玄関施錠をせず、開放しており原則、行きたい時に行きたいところに行って頂く支援しており、ケアの際は拘束に当たらないか考えながら行っている。	身体拘束廃止に向けた指針を整備し、法人として身体拘束適正化委員会を開催し、管理者及びユニットリーダーの参加により、拘束の他、グレーゾーン等を検討する等各事業所の事例を共有している。また、拘束について全職員からコメントをもらい、“ちょっと立ち止まって　一息ついて”とメンタル面でのケアに努める他、言葉がけについては全員で声かけしあう等注意喚起を図っている。年に2回研修を行なっており、拘束における弊害も正しく認識している。転倒リスクの高い入居者にはセンサーを使用しているが、家族からの同意及びプランに組み入れている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても年2回施設研修内で勉強会を開催し、無理しない介護やチームとして他の職員にお願いしやすい、発言しやすい環境づくりに努め、介護職員が孤独にならない様に行っている。又、大津町主催の虐待防止の研修に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度については、年2回の勉強会を開催している。今後は、必要性がある方等が出てきた場合は、それらを活用しながら支援を行って行く。又、大津町主催の権利擁護の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護報酬の改定などの際は丁寧にご説明したうえで、同意書に記入していただき、合わせて質問などを受け付けている。また、遠方のご家族様には郵送や電話連絡を行い、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望に対する検討と迅速な対応に努めている。面会時やケアプラン会議時に意見や要望があれば職員で情報を共有し、対応している。令和7年度はご家族に外出支援についてのアンケートを収集し、結果は運営推進会議内で報告を行った。	家族の面会時に近況報告の中で何かあれば申し出て欲しいと依頼するとともに、担当者会議の中で意見や要望を収集している。家族へは毎月便りによる情報発信やラインでの相互やり取りを行なっている。家族からは何らかの問題発生時の対応や入居者の些細な変化にも気づき連絡される事等へ感謝の言葉が上がる等絶大な信頼を得たホームである。家族への外出に向けたアンケートが買い物や実家訪問等に繋げている。	家族から料理会ができたら等の要望も出されており、機会があれば取り入れたいとしている。家族は日々の訪問の他、祭りも見学されている。家族との交流会等検討いただき、家族会発足に向けて尽力いただきたい。また、充実した運営推進会議であり、家族の参加により多方面からの意見が交わされることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的には年に2回、要望があればその都度個人面談を行い、職員の抱える心配事等の把握に努めながら、理念に沿った意見、目標達成に向けた提案等を積極的に取り入れる環境づくりに努めている。	管理者は職員とのコミュニケーションを図り、毎月のユニット会議やショートカンファレンスの中で意見交換をする他、職員へ向けた意見箱により意見や提案を収集している。年2回の個別面談も意見の発信の場として目標管理で立てた個別の目標の進捗状況等を聞き取りし、具体的な提案等をサービス向上に反映させている。職員の希望休の他、有給を推奨（職員同士が譲り合い）する等働きやすい環境としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップにつなげている。研修案内なども作り、職員の得意分野を後押しするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内研修を行っている。ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。 又、資格取得時の貸付、施設外研修や受講情報の案内等のサポートが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催する同業者の研修会等へ積極的に参加し、情報の交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後はICT・DXを活用されている他施設の見学を行い、取り入れていきたい。又、地域の管理者と連携をとり他の事業所の運営推進会議内の研修にもスタッフと一緒に参加できればと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の訪問の際、ご本人様と話をし、性格や生活歴を聞いたうえで、ご本人の要望や困りごとを聞き、安心して生活していただけるよう努力を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、ご家族様とゆっくり話を行っている。入居の時点では、ご家庭の様子や今後の方向性について話しをしている。身体拘束を行わない事により、様々なリスクがあることなども、全てお話した上で信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問の際、ご家族及び利用者の状況・お話しや表情、現在のサービス利用の状況を鑑みて、利用者様が現在どこで暮らすことが幸せなのかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、入居者を認知症と思わず、まずは「人」としての尊厳をもって対応するように話している。一家族と同じように対等の立場で接するように話している。又、馴染みの関係を築けるよう、イベントを計画し一緒に楽しめる環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お電話や毎月1回写真付きのお手紙を送付し、現在の表情など身近に感じて頂く努力をしている。面会時に近況報告したり聞き取りをしたりと関係を築ける努力している。ご家族様と一緒に外出行事を実施した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流は併設の特養へ入居されている方々とお互いに面会をされており、また、ドライブで町内の馴染みのある場所へ出掛けたりしている。	入居者同士が知人である事等入居者の会話の中での把握や家族からの情報により関係性を把握している。町内や自宅近くへのドライブ、故郷訪問では家族と話し合い職員が対応している。（実家での仏壇参り・墓参・近所付き合いのあった地域住民との交流など） 初詣や園児との交流、職場体験等で訪問する中学生等との交流等馴染みの人・場所との関係性の継続に家族の協力も得ながら支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者の行動や言動に留意し、職員が入り過ぎない様に努めている。仲が良い入居者同士を一緒の席に配置したり配慮している。なじみの関係で安心して過ごせる共同生活の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に行かれた入居者の所に面会に行ったり、昔ながらのなじみの関係がある入居者様をお連れしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望を聞いたり、普段の生活の中での表情などから楽しみや意向を読み取れるよう寄り添った支援を行っている。本人のペースに合わせた支援を心がけている。	職員は日々の関わりの中から入居者の思いを把握し、食事では残食や本人の嫌いな食べ物等会話から把握している。意思疎通の難しい入居者には携わるなかで言動や行動による推察や笑いもバロメーターとして捉えている。また、担当者会議での家族の情報を生かしながら、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当者会議の際にご家族様に入居前の事や入居者の過去のサービスの利用状況などを伺い、必要時は過去の利用施設に問い合わせ状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今出来ることなど、入居者を傷つけないように配慮しながら、ご本人が出来ることはして頂くなどの日常的な中にも役割を見出しながらケアを行っている。 入居者のやりがい作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスにてケアのあり方を話し合っている。現在の状況をアセスメントしながら生活課題を明確にし、本人・ご家族の思いを介護計画として作成している。	家族の訪問時や三ヶ月毎の担当者会議時に日々の様子等を説明し、聞き取りした事案（要望等）は経過記録に残している。居室での転倒等ヒヤリハットの時点で改善に向け検討し、モニタリングでは職員に聞き取りしケアマネジャーが再確認する体制としている。定期的な見直しや退院後の見直し等現状に即したプランとともに、ホームでの日常に“らしく”に焦点を当てた個別的なプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま（入居者が言ったそのままの言葉）で記録するように指導している。重要なことは、申し送りなどを行い、職員で情報を共有し、家族にもお伝えするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や入居者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。本人を中心とした個別サービスの提供に努めながらサービスの多様化を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同グループ保育園との交流や地域の中学生・高校生の職場体験等を積極的に受け入れながらイベントやレクリエーション活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、かかりつけ病院と施設で連携を取りながら訪問診療を利用されている。専門医で必要な受診がある時は希望に沿えるよう配慮している。	本人・家族の同意のもと、協力医療機関による月１回の訪問診療や訪問看護を支援している。専門科受診はホームで対応しているが、家族にも連絡を行い同行や待ち合わせ診察を受けている。職員は毎日のバイタルチェックで変化が有れば訪問看護と相談し、月初めの体重測定の結果を医師へ報告する等適切な医療を支援している。歯科については入居時に口腔内を見てもらい、状態によっては回数も変ることを家族に説明し、訪問歯科での診療としている。	受診結果は何かあればその都度家族へ連絡されており、何もなければ訪問時などに伝えている。受診結果は家族の気になる点でもあり、今後は何もない場合毎月の報告書の中に記すことで全家族への報告ができると思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきを職場内の看護師や訪問看護師へ報告する体制をとっている。必要であれば主治医へ報告し異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、直ぐに病院への情報提供が行えるよう書類を作成し更新している。また、地域連携室との連絡調整、情報の共有を行っている。その他、入退院同行にて病院でドクターと情報共有行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時から重度化、終末期の施設方針を丁寧に説明し、本人、家族の意向を確認しながら協力病院、訪問看護、家族、地域等と連携しながらチームで寄り添った支援を行っている。	入居時に重度化・終末期に関するホームの取組を説明し、その時点での家族の意向を確認いているが、「その時でないとわからない」と返答される方が殆どである。本人・家族の意向があれば看取り支援を行うこととしており、状態変化やプラン作成時にも心肺蘇生を含め半年ごとに確認いている。重度化され特養施設への申し込みをされる方もおられる。施設研修の中で年1回看取り支援に関する研修会を講師役として職員が関わっているが、更に外部講師への依頼も提案されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、実践できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行っている。またBCP訓練の実施及び避難訓練実施している。。なお、今後は地域との協力体制について市町村と相談、やり取りを行いながら、体制作りに努める。	今年度は1回目に防災業者の参加を得、日中を想定した訓練の実施、2回目は消防署と防災業者の参加による夜間想定の訓練が行なわれている。BCPについては、グループ施設全体で実施し、まずは行ってみて改善点が挙っている。（避難後の入居者の確認、普段から職員それぞれがマニュアルを読み込む必要性など） 備蓄はリストに沿って確保されている。	今後は地域との協力体制について市町村との相談や連携を図りながら体制づくりに努めたいとしており、取組が期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域で開催される認知症の勉強会に積極的に参加をしている。本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるように職員には話を行っている。一人の人として尊重し、その方の立場に立ったケアを行うことを徹底している。	入居者の自薦心を損なわないケアや尊厳に配慮しながらケアに取り組んでいる。呼称は苗字や同姓者には下の名前でも対応している。同性介助については、人員配置などの点から難しいこともあるが、馴染みの関係ができてくると応じられることもあるようである。個人情報の使用については担当者会議の中でも説明し、守秘義務は契約時に同意書を交わしている。身だしなみやおしゃれの支援として定期的な訪問カット支援やボランティアによるハンドケア、家族と外出し衣類購入なども行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての行動は、ご本人に確認してから行うように心がけている。認知症により判断が難しそうな場合は、2択にして自己決定を促すなどの工夫を行っている。認知症により判断に時間がかかる事もあるので、待つことも大切である事を指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行っている。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。一部、入浴の希望や施設外の散歩に行きたい入居者に対し、職員が少ない時は、希望に沿えず待って頂く事はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は化粧をされたり、お洋服を選ばれたりと、おしゃれを気にされている方もおられ、整容などの声掛けを行い、出来る方はご自分でして頂いている。今年度は数名の方ではあるが近くのイオンショッピングセンターにてご家族と一緒に洋服を見る機会を設け、購入されたり雰囲気を楽しんで頂くことができた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りをしたり、食べたい物を聞き、時にはテイクアウトを行う事もある。家庭的な雰囲気での食事に努めている。今年度は農園にて一緒に収穫し、旬の野菜を一品提供できるた。来年度はもっと種類を増やし栽培や収穫が出来るように努める。又、ご家族様参加型の料理の行事開催を考えている。	それぞれのユニットを1軒の家として献立を作成し、献立や食材を法人栄養士からアドバイスを受けている。誕生祝にはリクエストメニューを準備している。朝食に炊き込みご飯や、焼きそば、ピザ、うなぎ、寿司などのテイクアウトも取り入れた楽しい食事も支援されている。入居者の中にはお盆ふきや食材切りなど割烹着を持参して手伝われる方もおられる。菜園ではキュウリやレタスなどが育てられ、レタスは中華スープに、キュウリは入居者が塩もみをされその日の一皿として卓上に上っている。	家族から「家族参加型のお料理会」の要望が上がっており、管理者は調理メニューをあげながら意欲を語っており実現が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量のチェックを行っている。こまめに水分提供し促している。又利用者の嗜好も頭に入れ、時にはご自分のお好きな物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、ご本人に声掛けし、ご自身で歯磨きをして頂いている。難しい方に関しては、一部お手伝いをすることもある。訪問歯科により口腔内検査も実施しており助言や相談にものって頂き、口腔清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々に合ったタイミングでの声掛け行い、トイレ誘導行っている。トイレでの排泄を生活動作訓練と考え、出来る部分を引き出せるように支援を行っている。	個々に応じたタイミングでの声掛けやトイレ誘導、自立の継続を支援している。昼夜の排泄用品を検討し、夜間のおむつ使用や、自立の方もプライバシーに配慮して排せつ後確認している。排せつ用品を家族が購入される場合は適切な用品を伝えており、面会や意見交換の機会につながっている。ポータブルトイレの使用には配置場所を検討し、排せつ状況に応じてまとめてやその都度廃棄する等衛生管理を徹底している。	居室に置かれた排せつ用品については、家族の協力を得ながらクロスを掛けるなどの工夫に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ミルミル・ジョア・牛乳・オリゴ糖等と色々な食材を使用し、その中から入居者に合った食材を見つけ出す工夫を行い排便困難予防に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の使用上、午前と午後の使用制限はあるものの、基本、すべての利用者様に入浴の有無をたずね入浴介助を行っている。 気分が乗らなかったり無理強いしない様、時間や別日に調整しながら実施している。入居者様の重度化もあり機械浴も実施しているので毎日は入浴出来ていないが週3回の入浴(陰部清拭衣類更衣1回/週含む)を実施している。	ホームにはユニットに設けられた個浴や大風呂があり、入居者は希望や身体状況に応じた浴槽での入浴を楽しまれている。また、同建物内にある特養施設には機械浴も備わっており、身体状況に応じて使用されている。 入浴の拒否には声掛けや誘導の仕方を工夫するなど無理強いせず支援している。季節湯（菖蒲・柚子）は継続されており、敷地内に実ったもの柚が使用されている。	温泉入浴が楽しめることはホームの特徴である。光喜園温泉の効能について入居者と話をするなど入浴がさらに楽しみになる様な取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お手伝いして頂いている入居者が疲れた時は無理せず休息を取ったり、気分がのらない時は無理強いはしないようにしている。安眠に関しては、本人様のペースに合わせて気持ちよく眠れる様努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情カルテを訪問薬剤師が毎回更新しており、職員はそれを確認して、状況の変化等に気を付けている。薬局との連携は密に取れており、新しい薬が追加になった時は、どこに気を付けたらよいかを確認し状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の過ごしに張り合いがあり、喜びの日々となるよう、役割や楽しみを支援するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外に出たいというときは、基本、職員は付添い見守りを行い、行先は利用者にお任せしている。今年度も桜・つつじ・紫陽花・コスモス・見学実施し、10月には大津イオンショッピングセンターへ外出行事・故郷訪問を開催し、外出先で家族の方々と会って頂く為サポートした。1月～2月に近くの神社参拝予定。今後も外出の機会を増やし支援していく。	入居者の「外に出かけたい」との要望に、職員が付き添い、見守りにより散歩等に出ている。今年度は敷地内の桜を愛でながら花見弁当を楽しんだり、花見（つつじ・紫陽花・こすもす等）や地元神社への初詣にも出かけている。また、町内のショッピングセンターで家族と待ち合わせた買い物やふるさと訪問で仏壇まいり、墓参の他、生家での仏壇まいりをされた方など家族の協力を得ながら支援している。外出支援をスムーズに安全に取り組むために、職員による下見も行われている。	管理者は今後も個々の希望を大切に家族の協力をも得ながら、今できることを支援していきたいとしている。入居者の喜びや楽しみにつながる外出支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に同意書を頂き、3，000円までご自分で保管できる体制を整えている。ご自分で保管されている利用者に関しては、お金を数えられたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族の方に電話したいと希望ある時は繋いでいる。また知人からお便りが来られた方に返事を出すか希望を聞き、希望あれば返事を出せるように準備やお手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるようその時々にあった飾りつけに変更したり、居心地の良い空間作り、なじみの関係作りに努めている。	玄関に入ると隣接する有料施設の利用者から毎週のように直接届けられる絵手紙は、花や果物、景色など季節感や温もりのコメントが入居者や来訪者にとっても楽しみなものとなっている。桜山1丁目、2丁目と名付けられた両ユニットの入り口は開放され、ユニット同士で行き来されている。それぞれのユニットのリビングホール等の壁面には、入居者や職場体験の学生と一緒に作成した飾り物が掲示されている。共用空間は掃除や換気の徹底と必要な消毒が継続され、物品の配置や入居者の席は必要に応じて検討されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では、利用者が好きなときに散歩に行かれたり、テレビを視聴されたり、カラオケに行かれたりと、思い思いに過ごされる事で、ご自分の居場所の提供を行っている。また、入居者同士で、話しをされているときなどは、関係性を見極めながら、必要なときに間に入るなどの対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきて頂けるようにお話している。居室は、火気や動物の持ち込み以外は、何でも持ってきて頂けるように話している。私物に囲まれ心穏やかに生活して頂けるように配慮している。	入居に際し必要な衣類をはじめ、本人にとって使い慣れたもの安心できる私物などの持ち込みを依頼している。居室には、プラスチックの3段ケース、時計等の他、仏壇や遺影など心の拠り所となる品を持ち込まれている。衣類の管理は主に職員が行っているが、衣替えをされる家族もおられる。衣服や物品をはじめ不足や必要なものがあれば、電話や面会時に伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの状況を理解したうえで、出来ることをして頂き、自立した生活が送れるように寄り添った支援をしている。職員は、出来ない部分の一部を介助するのみで、しすぎないように気を付けている。また、入居者の行動を見極め、テーブルやソファーの配置をその都度変更することで、安全な空間を提供している。		

（別紙4）　　令和　7　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4392600112		
法人名	社会福祉法人光進会		
事業所名	グループホーム光喜園		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字室1713番地		
自己評価作成日	令和7年1月10日	評価結果市町村受理日	令和8年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和8年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念の「にっこり笑顔で私らしく、ほっこり幸せあなたと共に」を忘れず、施設にかかわるすべての方が笑顔で自分らしく過ごして頂けるよう、最後まで家族のように関わり、決して一人ではないと思って頂ける様に支援しております。常に利用者一人ひとりの気持ちに寄り添いながらケアを行うよう努めています。利用者に今を楽しんで頂くために、様々なイベントを行っています。また、ご家族にも安心して頂ける様に、毎月の状況を写真付きのおたよりで報告しております。入浴は温泉を完備しており、温泉に浸かりながら、のんびりと過ごして頂いています。地域連携に関しては、町主催の研修(虐待防止・権利擁護)に参加したり、近隣の中・高生の職場体験を受け入れ指導を行い、秋にはグループ施設全体でふれあい祭りを開催し、地域の方々との交流も行い大変喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名:グループホーム光喜園　2丁目

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の思いを形にした理念を作成する。その思いを忘れない様1年に1回の施設勉強会で理念塾を開催し理念についての話を行い、職員の介護に対する方向性を見失わずケアにあたるようにしている。又、理念は朝礼や会議の時に唱和行い、毎日の介護で実践出来るよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様9月にふれあい祭りを開催し地域の方々と交流をすることが出来た。その他、交流に関しては昨年度同様に運営推進会議を開催して地域の方々との交流を行っている。 又、大津町主催の虐待防止（虐待防止・権利擁護）研修参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も運営推進会議を開催し地域の方々と交流を行った。又、地域の中学生・高校生の職場体験希望者を積極的に受け入れ、認知症への理解や支援の方法、地域貢献が出来るよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も運営推進会議を開催し、地域の方々と交流を行った。会議内で入居者の状況、事故事例の報告・外出行事の報告等を行い、研修内容では初めて福祉用具の展示会を開催し参加された方々に最新の福祉用具を見て触れて体験してもらった。意見交換や地域との交流を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、施設運営やケアサービスの取り組みについて相談を行ったりと連絡している。メールや電話などでのやり取り、地域での研修会等も積極的に参加している。 運営推進会議にて福祉用具展示会開催の時には大津町DX担当者とも密に連絡を取り、情報の共有に努め、アンケート結果についても報告した。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、年2回勉強会を行い知識の研鑽に努めている。グループホームとしては、昼夜玄関施錠をせず、開放しており原則、行きたい時に行きたいところに行って頂く支援しており、ケアの際は拘束に当たらないか考えながら行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても年2回施設研修内で勉強会を開催し、無理しない介護やチームとして他の職員にお願いしやすい、発言しやすい環境づくりに努め、介護職員が孤独にならない様に行っている。又、大津町主催の虐待防止の研修に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度については、年2回の勉強会を開催している。今後は、必要性がある方等が出てきた場合は、それらを活用しながら支援を行って行く。又、大津町主催の権利擁護の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護報酬の改定などの際は丁寧にご説明したうえで、同意書に記入していただき、合わせて質問などを受け付けている。また、遠方のご家族様には郵送や電話連絡を行い、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望に対する検討と迅速な対応に努めている。面会時やケアプラン会議時に意見や要望があれば職員で情報を共有し、対応している。令和7年度はご家族に外出支援についてのアンケートを収集し、結果は運営推進会議内で報告を行った。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的には年に2回、要望があればその都度個人面談を行い、職員の抱える心配事等の把握に努めながら、理念に沿った意見、目標達成に向けた提案等を積極的に取り入れる環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップにつなげている。研修案内なども作り、職員の得意分野を後押しするように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内研修を行っている。ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。 又、資格取得時の貸付、施設外研修や受講情報の案内等のサポートが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催する同業者の研修会等へ積極的に参加し、情報の交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後はICT・DXを活用されている他施設の見学を行い、取り入れていきたい。又、地域の管理者と連携をとり他の事業所の運営推進会議内の研修にもスタッフと一緒に参加できればと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の訪問の際、ご本人様と話をし、性格や生活歴を聞いたうえで、ご本人の要望や困りごとを聞き、安心して生活していただけるよう努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、ご家族様とゆっくり話を行っている。入居の時点では、ご家庭の様子や今後の方向性について話しをしている。身体拘束を行わない事により、様々なリスクがあることなども、全てお話した上で信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問の際、ご家族及び利用者の状況・お話しや表情、現在のサービス利用の状況を鑑みて、利用者様が現在どこで暮らすことが幸せなのかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、入居者を認知症と思わず、まずは「人」としての尊厳をもって対応するように話している。一家族と同じように対等の立場で接するように話している。又、馴染みの関係を築けるよう、イベントを計画し一緒に楽しめる環境を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お電話や毎月1回写真付きのお手紙を送付し、現在の表情など身近に感じて頂く努力をしている。面会時に近況報告したり聞き取りをしたりと関係を築ける努力している。ご家族様と一緒に外出行事を実施した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流は併設の特養へ入居されている方々とお互いに面会をされており、また、ドライブで町内の馴染みのある場所へ出掛けたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者の行動や言動に留意し、職員が入り過ぎない様に努めている。仲が良い入居者同士を一緒の席に配置したり配慮している。なじみの関係で安心して過ごせる共同生活の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に行かれた入居者の所に面会に行ったり、昔ながらのなじみの関係がある入居者様をお連れしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望を聞いたり、普段の生活の中での表情などから楽しみや意向を読み取れるよう寄り添った支援を行っている。本人のペースに合わせた支援を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当者会議の際にご家族様に入居前の事や入居者の過去のサービスの利用状況などを伺い、必要時は過去の利用施設に問い合わせ状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今出来ることなど、入居者を傷つけないように配慮しながら、ご本人が出来ることはして頂くなどの日常的な中にも役割を見出しながらケアを行っている。 入居者のやりがい作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスにてケアのあり方を話し合っている。現在の状況をアセスメントしながら生活課題を明確にし、本人・ご家族の思いを介護計画として作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま（入居者が言ったそのままの言葉）で記録するように指導している。重要なことは、申し送りなどを行い、職員で情報を共有し、家族にもお伝えするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や入居者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。本人を中心とした個別サービスの提供に努めながらサービスの多様化を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同グループ保育園との交流や地域の中学生・高校生の職場体験等を積極的に受け入れながらイベントやレクリエーション活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、かかりつけ病院と施設で連携を取りながら訪問診療を利用されている。専門医で必要な受診がある時は希望に沿えるよう配慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきを職場内の看護師や訪問看護師へ報告する体制をとっている。必要であれば主治医へ報告し異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、直ぐに病院への情報提供が行えるよう書類を作成し更新している。また、地域連携室との連絡調整、情報の共有を行っている。その他、入退院同行にて病院でドクターと情報共有行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時から重度化、終末期の施設方針を丁寧に説明し、本人、家族の意向を確認しながら協力病院、訪問看護、家族、地域等と連携しながらチームで寄り添った支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、実践できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行っている。またBCP訓練の実施及び避難訓練実施している。。なお、今後は地域との協力体制について市町村と相談、やり取りを行いながら、体制作りに努める。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域で開催される認知症の勉強会に積極的に参加をしている。本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるように職員には話を行っている。一人の人として尊重し、その方の立場に立ったケアを行うことを徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての行動は、ご本人に確認してから行うように心がけている。認知症により判断が難しそうな場合は、2択にして自己決定を促すなどの工夫を行っている。認知症により判断に時間がかかる事もあるので、待つことも大切である事を指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行っている。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。一部、入浴の希望や施設外の散歩に行きたい入居者に対し、職員が少ない時は、希望に沿えず待って頂く事はある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は化粧をされたり、お洋服を選ばれたりと、おしゃれを気にされている方もおられ、整容などの声掛けを行い、出来る方はご自分でして頂いている。今年度は数名の方ではあるが近くのイオンショッピングセンターにてご家族と一緒に洋服を見る機会を設け、購入されたり雰囲気を楽しんで頂くことができた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りをしたり、食べたい物を聞き、時にはテイクアウトを行う事もある。家庭的な雰囲気での食事に努めている。今年度は農園にて一緒に収穫し、旬の野菜を一品提供できるた。来年度はもっと種類を増やし栽培や収穫が出来るように努める。又、ご家族様参加型の料理の行事開催を考えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量のチェックを行っている。こまめに水分提供し促している。又利用者の嗜好も頭に入れ、時にはご自分のお好きな物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、ご本人に声掛けし、ご自身で歯磨きをして頂いている。難しい方に関しては、一部お手伝いをすることもある。訪問歯科により口腔内検査も実施しており助言や相談にものって頂き、口腔清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々に合ったタイミングでの声掛け行い、トイレ誘導行っている。トイレでの排泄を生活動作訓練と考え、出来る部分を引き出せるように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ミルミル・ジョア・牛乳・オリゴ糖等と色々な食材を使用し、その中から入居者に合った食材を見つけ出す工夫を行い排便困難予防に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の使用上、午前と午後の使用制限はあるものの、基本、すべての利用者様に入浴の有無をたずね入浴介助を行っている。 気分が乗らなかったり無理強いしない様、時間や別日に調整しながら実施している。入居者様の重度化もあり機械浴も実施しているので毎日は入浴出来ていないが週3回の入浴(陰部清拭衣類更衣1回/週含む)を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お手伝いして頂いている入居者が疲れた時は無理せず休息を取ったり、気分がのらない時は無理強いはしないようにしている。安眠に関しては、本人様のペースに合わせて気持ちよく眠れる様努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情カルテを訪問薬剤師が毎回更新しており、職員はそれを確認して、状況の変化等に気を付けている。薬局との連携は密に取れており、新しい薬が追加になった時は、どこに気を付けたらよいかを確認し状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の過ごしに張り合いがあり、喜びの日々となるよう、役割や楽しみを支援するようにしている。		
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外に出たいというときは、基本、職員は付添い見守りを行い、行先は利用者にお任せしている。今年度も桜・つつじ・紫陽花・コスモス・見学実施し、10月には大津イオンショッピングセンターへ外出行事・故郷訪問を開催し、外出先で家族の方々と会って頂く為サポートした。1月～2月に近くの神社参拝予定。今後も外出の機会を増やし支援していく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に同意書を頂き、3，000円までご自分で保管できる体制を整えている。ご自分で保管されている利用者に関しては、お金を数えられたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族の方に電話したいと希望ある時は繋いでいる。また知人からお便りが来られた方に返事を出すか希望を聞き、希望あれば返事を出せるように準備やお手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるようその時々にあった飾りつけに変更したり、居心地の良い空間作り、なじみの関係作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では、利用者が好きなときに散歩に行かれたり、テレビを視聴されたり、カラオケに行かれたりと、思い思いに過ごされる事で、ご自分の居場所の提供を行っている。また、入居者同士で、話しをされているときなどは、関係性を見極めながら、必要なときに間に入るなどの対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきて頂けるようにお話している。居室は、火気や動物の持ち込み以外は、何でも持ってきて頂けるように話している。私物に囲まれ心穏やかに生活して頂けるように配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの状況を理解したうえで、出来ることをして頂き、自立した生活が送れるように寄り添った支援をしている。職員は、出来ない部分の一部を介助するのみで、しすぎないように気を付けている。また、入居者の行動を見極め、テーブルやソファーの配置をその都度変更することで、安全な空間を提供している。		